

当院案内冊子、足立スタンプラリーの台紙、荒綾八十八箇所巡礼の納経などを希望の方は寺務所にお申し付け下さい。

明王院だより

第9号

平成24年3月17日

真言宗豊山派 明王院 (赤不動)
〒123-0851 足立区梅田4-15-30
TEL 03-3852-7378

お不動様京へ帰る

昨年三月十一日の東日本大震災で被災した、当院の本尊様、不動明王立像(感得不動明王像)の修理を実施しております。昨年九月二十七日に、修理作業を実施する京都国立博物館内の工房への移動のため当院を搬出し、二百七十年ぶりに京都に帰られました。

東日本大震災で被災したお不動様は、像の高さ九十五センチメートルの立像で、二百七十年前の寛保二(一七四二)年に京都歌の中山の清閑寺(京都市東山区の真言宗智山派の寺院)より勸請されて以来、当院の本尊として、本堂(不動堂)に安置されておりました。被災以来、専門家による調査や助言を受けながら検討を重ね、前号でお知らせした通り、修理施工者として京都市にある財団法人美術院国宝修理所を選定しました。その後、美術院の修理技術者と協議しながら修理内容の具体化をすすめ、地震によって損傷を受けた箇所を復旧だけでなく、末永く安全に保存維持ができるよう、台座を大きくして安定化を図ったり、御像を背後から針金で支えるなどの処置をすることで地震の揺れに耐えられるような仕様としております。

今回、お不動様の修理を依頼した美術院は、明治三一(一八九八)年に岡倉天心が創設して以来、一貫して彫刻関連の文化財修理に取り組んできた、仏像の修理にかけては国内随一の実績をもつ著名な団体です。国宝や重要文化財に指定された仏像や神像の修理は、そのほとんどを美術院が手掛けています。お不動様搬出当日の昨年九月二十七日は早朝から晴天に恵まれ、朝九時過ぎに、美術院より所長の藤本青一氏、修理担当技師の門脇豊氏の二名が来寺されました。住職による御像の魂抜き(弘法大師著「不動尊功能」)の後、搬出に先立ち御像の梱包が行われました。梱包は、御像本体、地震による転倒の衝撃で外れてしまった肘や手や持物、光背(光背)を、台座といった部位ごとに、担架の上で丁寧に薄紙で何重にも包まれていきます。部位の大きさと形状に合わせて薄紙がちぎられて慎重に包まれていきます(写真)。また、薄紙を適当な大きさにちぎったものをより状によりあわせられたものが、紐として使われます。紐の結び目ひとつひとつも、結び目が御像のなかでも面部のようなデリケートな箇所になることがないよう細心の注意を払ってやらなければならぬというお話が印象的でした。そして、梱包の終わったお不動様は御像の大きさに合わせて作られたという箱に納められ、運搬用の自動車に載せられて、京都に向け出発しました。お不動様にとっては、二百七十年ぶりに京都の地に帰ることになった訳です。



御像は、本年六月末の竣工を目指して、京都国立博物館・文化財保存修理所内にある美術院の工房において現在も修理工事が進められています。

今後の主な予定

- 5月28日 護摩祈禱会
お札をご希望の方は、一週間前までをめぐにお申し出下さい。
- 7月18日 施餓鬼会
- 9月20日~26日 秋のお彼岸
- 9月28日 護摩祈禱会
- 日時未定 感得不動明王像修復開眼法要

みちしるべ

「不動明王立像」(当院蔵)



左の手に綱索(けんさく)を持するは不降(ふかろ)の者を繫縛(けいばく)するなり(弘法大師著「不動尊功能」)
お不動様は左手に綱索と呼ばれる縄をにぎっている。綱索は、一き、軌道修正をしてくれるのだ。端に鑲(かざり)と呼ばれる輪が、もう一端に分銅(ぶんどう)がついていて、五色の糸から成る縄で結ばれている。昔のイ

ンドでは動物を捕獲するための道具であったらしいが、お不動様の綱索には別の意味がある。
誰の教えにも耳を貸そうとしない聞きわけのない頑固な者が誤った道に迷いこむことのないよう、お不動様は綱索でもって導く。われわれが合掌という身振りを通じて、仏様に、願いや祈りという言葉を投げると、仏様からは利益や功德というポイントが返ってくるのである。ただし、期待する利益や功德が確実に返ってくるには、われわれの投げる祈りというポイントが仏様にちゃんと届かなくてははいけない訳である。そのためには、キャッチボール同様、適切なフォームと心構え、力加減が相俟った合掌が必要となってくるのである。そのためにも、日々の地道な訓練が必要になってくる。▼毎日、どんな短い時間でも静かに合掌する。これ続けることによって、仏様との以心伝心の交流ができるようになる。(R)

お不動様修復ご寄進のお願い

前号でお知らせしたとおり、昨年三月の東日本大震災で被災したお不動様と安置する仏具の修理のための寄付金の募集を、昨年九月より実施しております。すでに五百五十名を越える方々から賛同をいただいておりますが、一人でも多くの方々のお力添えをいただき、お不動様とご縁をしっかりと結ぶ機会にさせていただければと存じます。引き続きご賛同ご協力を謹んでお願い申し上げます。

一口五千円で何口でもお受け申し上げます。檀信徒の皆様にはすでに趣意書と振替用紙をお送りしましたが、寺務所にも用意がございます。ご寄進は郵便局からの振替用紙による送金、寺務所への現金の持参、どちらでも結構です。

平成二十四年 年回表

一周忌	平成二十三年
三回忌	平成二十二年
七回忌	平成十八年
十三回忌	平成十二年
十七回忌	平成八年
二十三回忌	平成二年
二十七回忌	昭和六十一年
三十三回忌	昭和五十五年
三十七回忌	昭和五十一年
四十三回忌	昭和四十五年
四十七回忌	昭和四十一年
五十回忌	昭和三十一年

こらえ

▼小一の息子が学校の課題で、国語の教科書を繰り返し音読している。読み物の一つに「身振りで伝える」という文章があり妙に興味を覚えた。人の身振りが言葉に劣らず大事な意思疎通の手段であるという内容だった。▼私どもの真言宗の修行でも、印を結ぶといって、身振りを仏様の行いのシンボルとしてとても大切にしている。最も代表的な身振りが手を合わせることに、つまり合掌なのである。▼合掌とはキャッチボールのようなものである。われわれが合掌という身振りを通じて、仏様に、願いや祈りという言葉を投げると、仏様からは利益や功德というポイントが返ってくるのである。ただし、期待する利益や功德が確実に返ってくるには、われわれの投げる祈りというポイントが仏様にちゃんと届かなくてははいけない訳である。そのためには、キャッチボール同様、適切なフォームと心構え、力加減が相俟った合掌が必要となってくるのである。そのためにも、日々の地道な訓練が必要になってくる。▼毎日、どんな短い時間でも静かに合掌する。これ続けることによって、仏様との以心伝心の交流ができるようになる。(R)